

上益城郡山都町役所で夏秋キャベツを栽培されている高橋和成さん（27才）を取りました。高橋さんは一家は、おばあちゃんご両親、ご本人の4人です。

○就農まで

高橋さんは、将来は家の農業を継ぐ意図で、地元の矢部高校へ入学し生活園芸課の野菜コースを選択されました。そして卒業後は、農業外の仕事を経験してみたいと、4年間の期間を決めて熊本市内で働かれたそうです。その後、予定どおり地元に帰り就農され、今年で6年目になるとのことです。

○農業に取り組んで

農業は、ご両親と3人で夏秋キャベツ（5.5ヘクタール）を中心に、他に水稻（80アール）、シイタケを作られています。

キヤベツは、2月上旬から小さいポットに種を播き、4月上旬から植え付けを始め、6月から11月末まで順次、収穫となります。

キヤベツは、出来具合を確かめながら1ケースに6~9個を箱詰めして、一日平均200ケース（約2トン）、年間で2万ケースを下名運石にあるJAかみましきのキヤベツ集荷場へ出荷しているのです。農業に

○好きな言葉  
「二言芳恩」  
「いちざんほうおん」

「ひとこと声をかけてもらつたことを忘れずに感謝すること」という意味だそうです。取材して、落ち着いた語り口の中に、芯の強さを感じた高橋さんの印象と重なる言葉です。



我が家のキャベツ畠（11月未収穫予定）の前で  
生産者 高橋 和成さん

従事されている今の感想を伺うと、「農業の方が肉体的にはきつい。また、台風や降灰など自然の影響を受けやすいなど厳しい面もある。しかし、仕事としては厳しい面もある。自分が育てたものが、きちんと出荷できた時のうれしさは格別だ。欲を言えば定期の休みが欲しいが」と答えられ、農業に対する誇りを感じました。

さらに、出荷が安定するよう、今後とも品質向上を目指して研鑽したいと抱負を語られました。

○地域住民との関わり

就農翌年に、JAかみましき青年部に加入され、通潤橋のお田植祭りでの幼稚園児・小学生の農業体験を手伝ったり、どうんこサッカーなどで住民との交流もなさいています。また、山都町管内の20代~30代前半の農業者や経営者で作るHクラブにも参加して、業種間の知識の交流や、年一回の視察研修に行ったりされています。

井さん宅では、ご主人が野菜の研究、作付計画等を担当し、井さんがそれを実行しています。「トラクター、コンボなんでも乗れます」とのこと。それらを操縦して50アールの畠を管理しています。現在はトルコギキョウやピーマン等を出荷。ピーマンは自分で種取り、品種改良した2種類を栽培しています。一つは「マニP」と名付けた長いピーマンで、今年は最長30センチの物ができたとのことです。もう一つはカラーピーマンです。紫色の物から、白や黄色、薄緑等のピーマンを作り出しました。「野菜を作り上げていくプロセスが楽しい」と井さんは話します。またレタスは、リーフレタスとサニーレタスの2種類を栽培。1年中レストランや直売所関係の惣菜屋にも出荷しています。最高1日で200個のレタスを卸したこと。今はまだ研究中ですが、プチヴェールというスムージー

筋金入りの農家です

井さんは小国町の出身です。「父は組合長をしていました。新し物好きで当時珍しかったレタスなども育てていました。私も小さいころから手伝いをしていましたよ」とのこと。本格的に農業を始めたのは、中学生の頃に実父が亡くなつてからのこと。兄と共に働き母を助け、弟妹を育て上げました。後にご主人と結婚し、現在は波野で農業をされています。

○自分で作る面白さ

井さん宅では、ご主人が野菜の研究、作付計画等を担当し、井さんがそれを実行しています。「トラクター、コンボなんでも乗れます」とのこと。それらを操縦して50アールの畠を管理しています。現在はトルコギキョウやピーマン等を出荷。ピーマンは自分で種取り、品種改良した2種類を栽培しています。一つは「マニP」と名付けた長いピーマンで、今年は最長30センチの物ができたとのことです。もう一つはカラーピーマンです。紫色の物から、白や黄色、薄緑等のピーマンを作り出しました。「野菜を作り上げていくプロセスが楽しい」と井さんは話します。またレタスは、リーフレタスと

サニーレタスの2種類を栽培。1年中レストランや直売所関係の惣菜屋にも出荷しています。最高1日で200個のレタスを卸したこと。今はまだ研究中ですが、プチヴェールというスムージー

に使える野菜を作っています」という言葉です。

○直売所について

「直売所は皆が集えるところで、私にとっては大切な場所です。直売所のスタッフやお客様方と会話やふれあいができることがあります。それは出荷しなかつたらでもきなかつたことだから」と話す井さん。

「売つてよかつた、買つてよかつた」という関係を大切にしています。だから「季節によつて野菜が少ない時があるのでもつと地元農家に呼びかけて出荷してもらう様になればいいと思います」とも話されました。



J A 阿蘇直売所  
出荷者 井 まゆみさん

○これから抱負

井さんは、これから抱負として、「道の駅等の観光型の直売所と地域密着型の直売所では、加工食品と生鮮野菜とで売れ筋が全く違うように思います。今は生鮮野菜だけ出荷していますが、いずれ自分で加工所をもつて加工品を作り販売してみたいです」と夢を話してくれました。